

働くことのイメージが“ワクワク”

はじめての “お仕事とキャリア” 道案内

PART1



まずは、「仕事つてこうだよね」
なんて先入観は脱ぎ捨て、
自分だけの未来を見つけにいきましょう。

『はじめて』って、ちょっと不安になるけど、ワクワクもする。
進路とか就職とか、お仕事とかキャリアを考え始めた君たちは今、
『はじめてのミライ』を前に、そんな気持ちかもしれません。

でも、ミライは、君たちの数だけあるのです。
それは、この「お仕事とキャリア」の道案内を
読んでもらうと分かるはず。
案内をしてくれるのは、

キャリア教育の専門家である児美川孝一郎先生。

『いい仕事に就く』の『いい』は、自分で決める時代。
そのためにも、働くイメージを膨らませてほしい』。



教えてくれた人

法政大学キャリアデザイン学部
児美川孝一郎教授

東京大学教育学部、同大学院教育学研究科博士課程を経て、1996年より法政大学勤務。2003年、日本で唯一の「キャリアデザイン学部（職業だけでなく人生を設計することを学ぶ学部）」の立ち上げに参画し助教授、2007年に同学部教授。日本教育学会理事。著書に『キャリア教育のウソ（ちくまプリマ－新書）』『夢があふれる社会に希望はあるか（KKベストセラーズ）』『自分のミライの見つけ方（旬報社）』などがある。

お仕事の【あるある先入観①】

「お仕事ってこうだよね」のよくある
先入観について、まずは考えてみましょう。

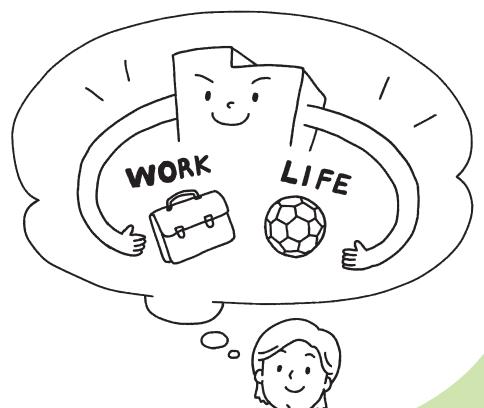


何が“いい仕事”か分からなくなつたので、
ちょっとまとめてみよう。
“いい仕事”的対立構図は、これだ!

社会の
“いいい”

VS

自分の
“いいい”



これからは、
自分の“いい”が主流!?

しかし、「VUCA(ブーカ)変動・不確実・複雑・あいまい)の時代」といわれるよう、企業は生き残りを目指して、「高卒・大卒などの一括採用」や「終身雇用」から、柔軟な人材採用へと変わり始めています。採用される側も、規模や給料などだけにとらわれることなく、自分の生き方に合わせた働き方を重視するようになりました。“いい仕事”とは、社会ではなく、自分の価値観で決める時代が始まっているのです。

社会の“いい”って何?

戦後から高度成長期にかけて日本では、社会の中で“いい仕事はこれ”と語られていたかもしれません。その“いい仕事”的基準は、会社の規模や安定性、給料などでした。何せ、ひとつ的企业に定年まで雇用され続けるという「終身雇用」が普及した時代。高校や大学などを卒業すると、何十年も勤めることができ当たり前でした。だからこそ、倒産しないような規模が大きい安定した企业に勤めることが、“いい仕事”といわれていたのです。

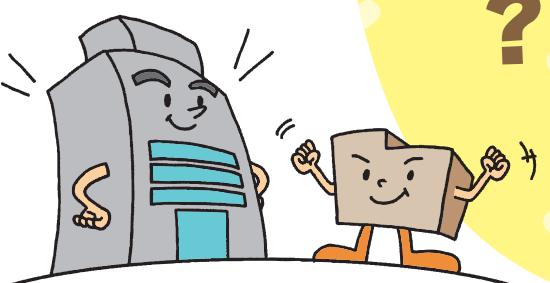


ヒント1

「あの人は“いい仕事”に就いた」なんて、おとなたちが話しているのを聞いたことがあるよね。その“いい”を指しているのは、会社の知名度とか規模とかじゃないかな。でも“いい”って、他人の評価で決めるものなのかなあ。

ヒント3

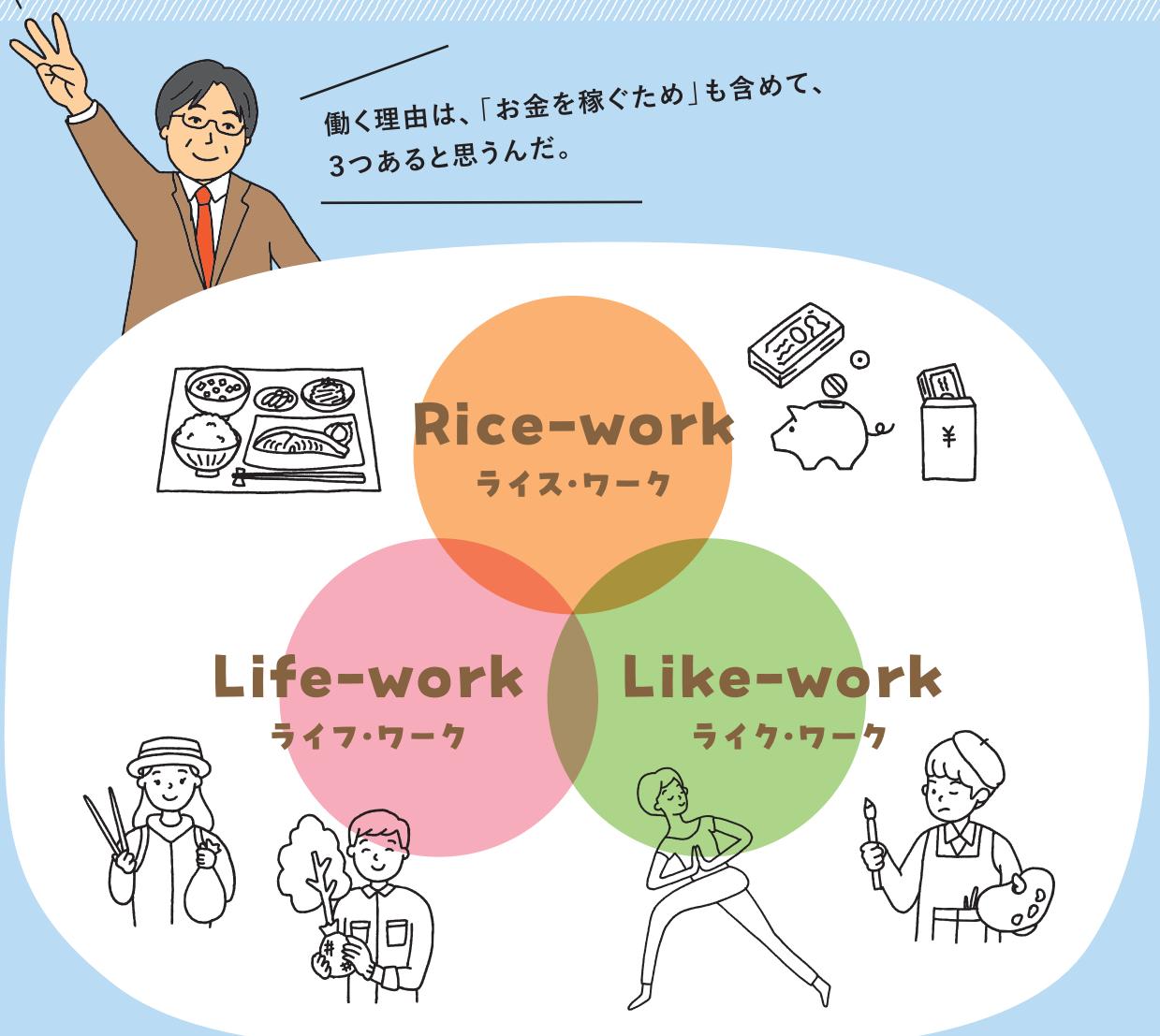
大きな会社では、多くの人に影響を与える大きな仕事ができることもあるだろう。でも規模が小さな会社でも、他の会社や行政と協同して、大きな仕事につなげている事例は多い。また、多くの人に影響を与えてられなくても、目の前の人喜んでもらえる仕事もあったりする。“いい仕事”って、会社の規模では決められない?



ヒント2

「給料は高い方がいいに決まってる!!」そうかな? ①給料はいいけど、すごく忙しい会社、②給料は①よりもちょっと低いけど、休みがしっかりとする会社—どっちを選ぶ?





ライク・ワーク「自己実現」のため。

「やりがいを感じたい」など、働く目的は自己実現という考え方です。自分の好きな生き方を求めるから、「ライク・ワーク」と名づけています。自分の夢をかなえ、やりたいことを仕事にする。でもライク・ワークは、夢ややりたいことが見つからない人にとって、ちょっと焦りを感じてしまう言葉かもしれません。

3つ目の視点、ここが大切。人間は、一人で生きているわけではありません。社会をつくり、協力しながら生きていく。「社会に参加し」「社会に貢献する」ことも働くことの大きな目的です。賃金を得ないボランティアなども、そのひとつ。一生を通じて役割を果たすことから、「ライフ・ワーク」と名づけています。

ライス・ワーク 「経済的報酬」のため。

お金を稼いだり、賃金を得るためというのが、働く目的のひとつです。『お米を買う』『食べるため』という意味で「ライス・ワーク」としました。ライス・ワークは、趣味に費やすためや、今後の蓄えなど、経済的に豊かな人生を設計することを目的に働くという意味も含まれています。



ワーク・ライフ・バランスってなに?
「仕事と生活の調和」という意味。内閣府によると、「誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、家庭や地域生活などにおいても、多様な生き方ができる社会」のこと。



お仕事の【あるある先入観③】

初めての仕事選びは、「人生でどんなふうに仕事をしていくか」「仕事上の経験をどう積んでいくか」といったワークキャリアの出発点になる。だから、人生の大仕事ではあるよね。でも、人生の大仕事は、仕事だけじゃないんだよね…。

仕事選びや会社選びって、人生の大仕事？

ヒント1



ヒント3



もちろん、仕事選びや会社選びも大仕事だけど、それだけが大切じゃない。どういう風に生きていくか、誰と生きていくか、親が高齢になったらどうするか、地域社会の中で、どんな役割を果たしていくのか。そんな暮らし方や生き方も、人生の大仕事なんだ。つまり、「仕事が成功すれば、人生がうまくいく」というわけではないんだよね。

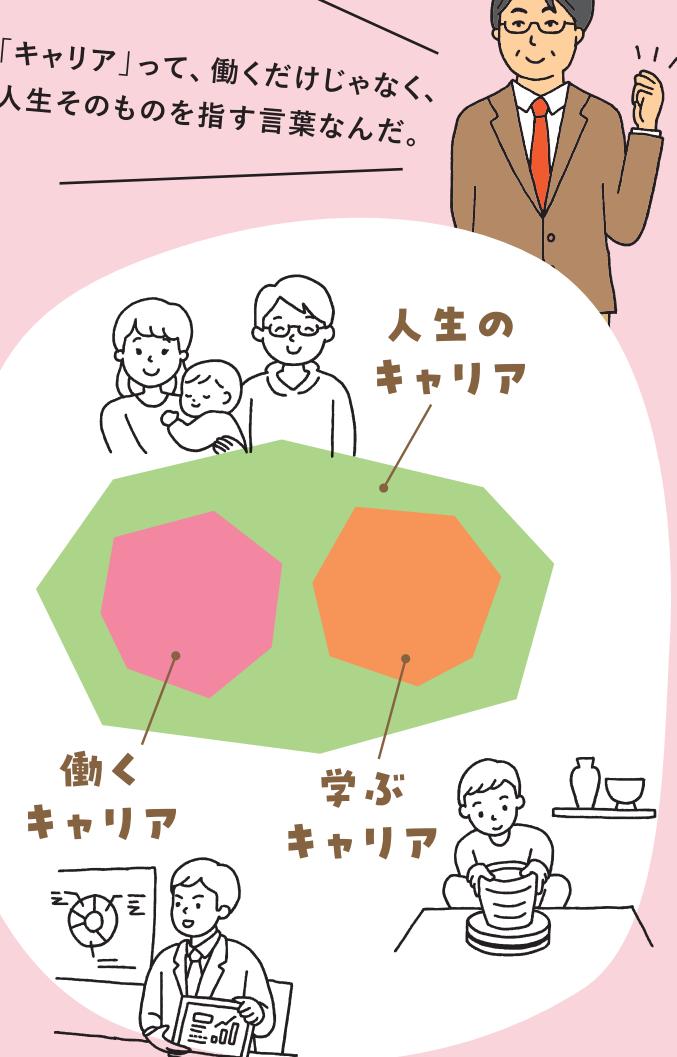
ヒント2

現在では、入社した会社で、定年まで働き続けない場合も増えているんだ。だからといって、会社は気軽に選んでいいよと、アドバイスしているわけじゃないよ。その会社でどんな仕事をしたいのか、その会社を通じてどんな経験をしたいのかというイメージを持つことが大切だね。

自分のキャリアの探し方って？

多様な生き方と、たくさんの働き方…。その中で、自分はどんなキャリアを進んでいいらしいのでしょうか。そのヒントは身近に見つけることができます。

授業も役立つでしょうし、新聞やネットなど多彩な情報源もあります。ですが、もっとも大事なのは、「生の声を聞くこと」。動画アプリなどでも内声を聞くことはできますが、人と会うことに勝る“リアル”はありません。高校の先輩や知り合い、親ごさんなどを通じて、いろいろな人のキャリアを知ることは、きっと役に立つでしょう。この「ふくいお仕事図鑑」でも、たくさんの福井の先輩たちが登場しています。その声を、キャリア探しや仕事探しのヒントにしてみましょう。



人生のキャリアに、「働くキャリア」がある。

キャリアとは働くことだけでなく、どんな生き方をしていくのか、どこを暮らしの拠点とするのか、家族は持つかなど、人生そのものを指します。だからこそ、「ライフ・キャリア」と呼ばれています。

そのライフ・キャリアの一部に、「働くキャリア」があるのです。「働くことがすべて」という人もいれば、「家族や趣味などの楽しみも、働くことも大切

にしたい」という人もいるでしょう。多様な生き方の中でも、さまざまな「働くキャリア」があるのです。キャリアの中には、「学ぶキャリア」もあります。その学びも自分のキャリアを成長させたり、磨いたりすることにつながります。高校生のあなたも、キャリアを歩んでいる一人なのです。

まずは
お仕事図鑑を読んで
キャリアのイメージを
膨らませてみよう。

